

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

松島小学校  
「学力向上実行プラン」

- 学習に対する主体性や学習意欲を高める授業の実践
- 認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

【小中連携または中高連携における共通の取組】

英語教育では、小学校と中学校の教員が互いに指導内容や指導方法について共通理解を図っている。

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員 寺井 邦江
- 委員 校長:小竹 義和 教頭:山口 裕司  
 教務:武市 隆 低学年推進委員:林 岳洋・露谷 容子  
 中学年推進委員:村本 明美  
 高学年推進委員:友成 恵子

校長

小竹 義和

【各校の取組状況の把握について】

日々の情報共有、教室見学、研究授業等により取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○読み・書き・計算の基礎的基本的な知識・技能がほぼ身につけており真面目に取り組む児童が多い。 ●長い文章を正確に読み取ったり、身につけた知識等を関連づけたりすることに課題がある。	・基礎的基本的な知識・技能を確実に身につけている。 ・身につけた知識が既習の知識と関連づけられ、他の学習の場面で活用することができる。	・ねらいや課題を明確にした授業を行うとともにノート指導の充実を図る。 ・漢字・計算テスト、音読カードを継続的に実施し、基礎・基本の定着を図る。 ・児童が興味を持って学習に取り組むことができるように発問を工夫する。	時間の構造化・場の構造化を図る。発言の仕方や聞く態度のルールを明確にする。動作や作業を取り入れ、集中力を持続させる工夫をする。クラスで話し合う・伝え合う・協力し合う場面をたくさん取り入れる。	・毎時間、板書には必ず本時のめあてを書き、まとめ、振り返りと授業スタイルの統一化ができたが、話す聞く態度の徹底までには至っていない。 ・基礎的・基本的事項の定着は、継続的なミニテスト等の取組や日々のノート指導の充実で補えた。	・学習の基礎である話す態度聞く態度の徹底に向けて、今後も発達段階に応じて学校全体で取り組む。 ・一人一人の理解度に応じた個別学習やタブレット端末の活用方法を模索し、基礎的・基本的な学力の向上に繋げる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○新しい経験や知識・技能を習得するため、話をしっかり聞くことができる児童は多い。 ●自分の考えを簡潔にまとめたり順序よく説明したりすることに課題がある。	・目的に応じて、自分の考えをまとめたり順序よく説明したりすることができる。 ・話し合い活動を通して、解決する方法を考えることができる。自分の考えをまとめたり、新しい考えを創造したりすることができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動を工夫する。 ・自分の考えを文章に表現する機会を増やし言語活動を活発に行う。	各教科において、読解力をつけるために読書の時間を大切にする。自分の考えをまとめて表現する書く活動の時間を増やす。常に理由付けを授業の中で意識して問いかけていく。	・読書の時間の充実を図り、読む本の紹介などを試むことで意識は高まったが長文を読むことに課題も残る。 ・理由や根拠に基づいて発言できる児童は少なく、深い学びにつながる発問は上手くいかなかった。	・家庭での読書週間など生活習慣を見直す必要がある。 ・話し合い活動を重視し、友達の意見と自分の意見を比較し相違に気付くことができるように見直しをする。 ・振り返りでは書く活動を充実させる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いて与えられた課題には熱心に取り組む児童が多い。また、家庭学習にも自主的に取り組むことができる。 ●課題解決に受け身で、主体的に学ぼうとする意欲に課題がある。	・課題や自主学習に意欲的に取り組むことができる。 ・苦手な課題にも取り組み、最後まで取り組むことができる。	・自主学習のやり方を家庭学習の手引きで示し、家庭学習の習慣化を図る。 ・めあての設定からまとめ・振り返りまで児童主体の学習の流れになるよう心がける。 ・振り返りの時間を確保し記述させる。	ペア学習やグループ学習の機会を増やす。児童の興味を引き出せるような工夫をする。振り返りを活かして次時への活動につなぐなど計画的継続的な指導をする。	・めあての設定から振り返りまでの学習が概ねできているが、児童が主体的にできないこともあった。 ・自主学習の進め方など良い例を取り上げ掲示することで意欲が高まった。	・児童が主体的に取り組むことができる授業づくりやめあてのもち方を心がける。 ・自主学習の内容や取り組み方等の例を示すなど充実を図る。 ・粘り強く課題に取り組む姿勢の向上を図る。

令和4年度 学力向上ロードマップ

